



ドクター・ハザマの

バイタルサイン塾 2

「薬剤師のPDCAサイクル」を回すために

ファルメディコ株式会社
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座
医師・医学博士 狭間 研至

私が医師になって16年 以来、楽しく仕事を続けてきた原動力とは

ところで、私は医師として16年目に入りました。取り組んでいる内容は、消化器外科、胸部外科、一般外来、在宅医療と変遷はしていますが、飽きもせず楽しく仕事をしています。

この原動力は何でしょうか。患者さんとのコミュニケーション？ 医療におけるさまざまなスキル？ 学問的興味？ 社会的地位や報酬？

いずれも、間違いではありませんが、正解ではありません。

私が毎日、新しい気持ちで患者さんと向き合っているのは、「前回私が下した決断が、患者さんの状態にどのような影響を及ぼしているのか」を日々自分の五感を(時には第六感も)駆使してチェックし、さらによりよい状態にもっていくために新しい決断を繰り返すというスパイラルが回っているからです。

医師にとってのPDCAサイクルは どのように回っているか

これは、別の言い方をすれば「PDCA サイクル」が回っているということもできます。

PDCA サイクルとは、ご存じの方も多いと思いますが、Plan → Do → Check → Act という順序で業務内容を常に見直していくことを指します。

医師の場合、患者さんを診察し、患者さんの状態に応じた治療戦略を考え(Plan)、手術や処方などの医療行為を行った(Do)あと、その成果を確認(Check)。その判断をもとに次に何をすべきかを定める(Act)というサイクルです。

これが回っていると、「ああ、思った通りによくな

っている」、「あれ、何か、変だぞ」という Check が常にあり、それにもとづいて、何をすべきかを考えるという無限ループに入っていきます。

そして、私たちがした行為(Do)によって、患者さんの体により影響が及んでいることが確認(Check)できた場合には、患者さんからは必ず「ありがとう」という言葉が寄せられます。これが、医者冥利につながるのかも知れません。

医療のPDCAサイクルを 薬剤師はこれまで回せてこなかった？

では、薬剤師はどうか？ 処方せんを頂いて、正しく迅速に調剤し、お薬をお渡す。この業務における PDCA サイクルに、この20年あまり薬剤師は真摯に取り組んできたのではないかと、と思います。

例えば、調剤過誤率であったり、おくすり手帳携帯率であったり、コンプライアンス調査であったり。しかし、誤解を恐れずに言うならば、医療そのものの PDCA サイクルを薬剤師は回せてこなかったのではないかと思うのです。

自分が調剤したお薬を患者さんが服用された。しかし、その後、一体どうなったのかを、薬剤師は自分の五感(もちろん、第六感も!)でチェックすることをしなかった(=できないと思い込んでいた?)のではないのでしょうか？

薬剤師にとってのバイタルサインは、薬剤師が医療における PDCA サイクルを回せるようになるための極めて重要なツールになります。

換言すれば、薬剤師がバイタルサインを採用することは、薬剤師が医療における PDCA サイクルを回し始め、医療における楽しさ、薬剤師冥利を体感できることにつながるのではないかと考えています。